Sustainable Week 2020

REPORT

立命館大学 Sustainable Week 実行委員会

SUSTAINABLE WEEK

Sustainable Week2020
報告書

Contents

はじめに	p.2
Sustainable Week 実行委員会とは	p.3
Sustainable Week とは	p.4
Sustainable Week 2020 開催要項	p.5
企画紹介	p.6 - 18
KASSAI	p.19
数字で見る SW2020	p.20
謝辞	p.21
おわりに	

Sustainable Week 2020

2020.10.5 MON - 10.10 SAT

主　催　立命館大学 Sustainable Week 実行委員会

後　援　立命館SDGs推進本部／滋賀県／大津市／草津市／立命館大学サービスラーニングセンター

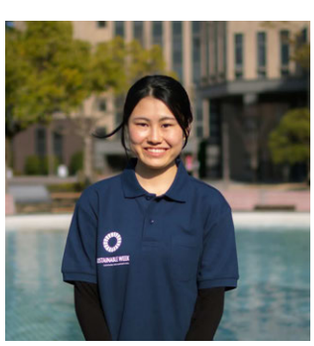
運営協力　一般社団法人 SDGs Impact Laboratory

協力団体　一般社団法人環びわ湖大学・地域コンソーシアム学生事業支援部会 / 社会システム研究所・山中グループ / 大川活用プロジェクト支援団体 haconiwa/ くさつ男女共同参画市民会議い～ぶん / 株式会社 安井建築設計事務所 / 立命館大学 生存学研究所 / 社会福祉法人 高島市社会福祉協議会 /TaBiwa+R/ 東近江 BBS 会 / アオイエ塾 / 京都･関西 SDGs ネットワークみやこ KAMADOKI プログラム実行委員会 /SUIKU 学生チーム /HHART/CLOVER/ 立命館大学 Ritree(緑化プロジェクト)/ 立命館大学新聞社 / 立命館大学 enRits 実行委員会 /more__/mecara/ 立命館大学 RI-sA プロジェクト / 学生協働型キャンパス課題発見･解決プロジェクト (チーム :Chill Tra)/

はじめに

新型コロナウイルスによって社会が大きく変わった2020年。多くの人が当たり前とは何かを問い直したり、変化が続くことによってこれからの見通しが立たない不安を感じたりしたことと思います。立命館大学Sustainable Week実行委員会は2017年から3年間、立命館大学びわこ･くさつキャンパスでSustainable Weekを開催してきました。キャンパスへの入構制限や対面での活動制限などコロナ禍の影響は多大なものでしたが、刻々と変化する社会でSDGsを推進する、という活動に対する思いは変わりありません。オンラインでのSustainable Week 2020の開催の背景には、コロナ禍のこのような状況だからこそ今できることをやろう、という決意があります。イベントの実施やコンテンツの発信を行った6日間はもちろん、準備期間も含め困難なことがたくさんありました。しかし、イベントに参加してくださった皆様に私たちの思いを届ける機会、そして参加者の皆様自身がこれからの実現したい未来を考え行動するきっかけになったのではないかと思います。この報告書を読んでくださる皆様にとってもそのようなきっかけになれば幸いです。

そして皆様と共に2030年に向けてここから新たな一歩を踏み出せると信じています。



豊田 真彩

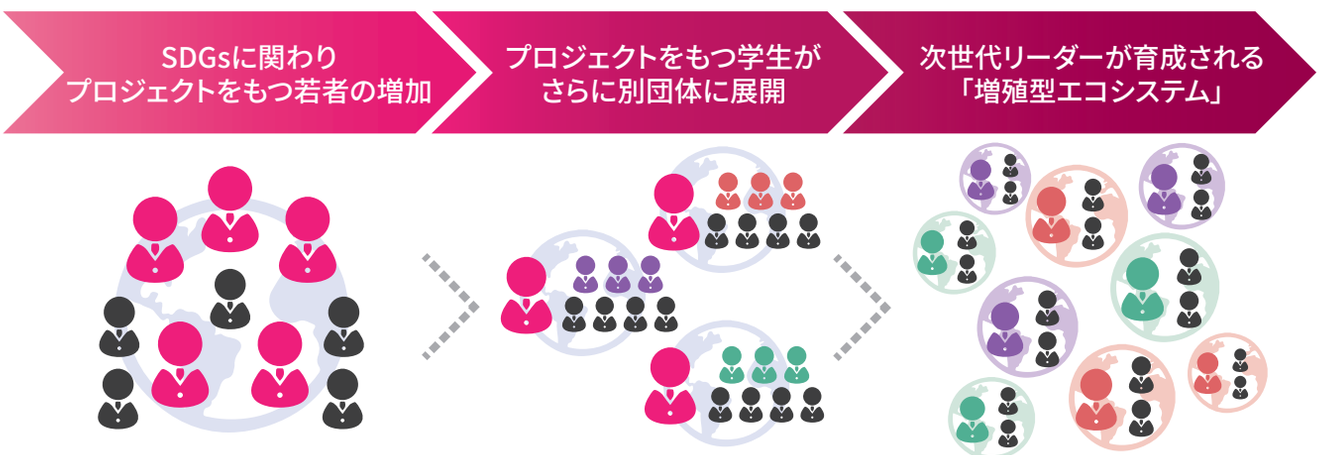
立命館大学 Sustainable Week 実行委員会 実行委員長

立命館大学食マネジメント学部 2 回生

Sustainable Week 実行委員会とは

立命館大学Sustainable Week実行委員会は、国連が掲げた地球規模でのSDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けて、様々な分野で活動する学生が、その活動内容や専門性を活かしながら、プロジェクトを行っている学生団体です。その活動は学内にとどまらず、地域や社会を巻き込んでいます。2017年に日本初の学生主体のSDGs体験型イベント「Sustainable Week2017」を開催する実行委員会として発足しました。立命館大学の学生自身が時代・社会・ひとが刻々と変化する社会の持続可能性について考え、マイプロジェクトとして表現する機会を学生自らの手で創出しています。

増殖型 SDGs エコシステムの実現



当団体はビジョンとして、関わった学生・若者が、ここで身に着けたマインドやスキル、システムを最大限活用して新たなフィールドで活躍する「増殖型 SDGs エコシステム」を実現することを掲げています。

その実現のために、自己表現や学生同士さらに社会と連携した参加しやすい体験型のイベントを通してより多くの人にSDGs等の社会課題を身近に感じ、「自分ごと」にしてもらうことを目指しています。これまでの活動を通して、立命館大学内、他大学立命館の附属高校など50を超える学生団体と関わり、企画内容や資金面では約15の企業にご協力いただいています。さらに、立命館大学びわこ・くさつキャンパスがある滋賀県やその周辺の京都府、大阪府などの市町村をはじめとする約15の行政機関とも連携しSDGsなどの社会課題に取り組んでいます。このように、団体内に限らず、外部のステークホルダーを多数巻き込みながらイベントを行い、それらを発信することでSDGsリーダーを育成し、一人一人のSDGsへの取り組みが周りに波及していくような活動を目指してしています。

SDGs とは

SDGsとは、2015年に国連で採択された、2030年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標です。17の目標と169のターゲットがあり、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。SDGsは発展途上国だけでなく、日本のような先進国も共に取り組むことが求められています。

Sustainable Week とは

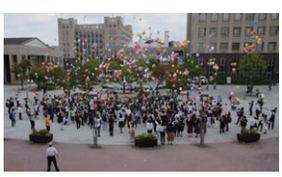
Suatinable Weekは、2017年にスタートした、日本初の学生主体のSDGs体験型イベントです。学生が身近にある問題意識と向きあいSDGsを実践することを目指し、身近な大学のキャンパスを「人口1万人の小さな地球」と見立て、さまざまな学生団体やサークル、企業、行政の協力のもと開催されています。SDGsの普及・啓発にとどまらず、SDGsなどの社会課題を身近に感じてもらい、「自分ごと」として捉えてもらうために、周辺地域をまきこみながら大学から社会へ発信しています。

Sustainable Week 2017-2019

はじめよう、僕らの未来デザイン

SW2017

1 週間で全ての SDGs ゴールの達成を目指し、
27 のサークルや団体が集まり企画した。



We are SDGs Leaders,

SW2018

「知る・考える・発信する」と段階を踏んで
2 度のプレイベントと SW 本番を実施した。

Be an Impact Producer.

SW2019

年間 50 を超えるプロジェクトを通して SDGs
の達成を目指し、集大成として成果を発信した。

Imagine the Future -ニューノーマルな文化祭-

SW2020

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、
オンラインツールを最大限に活用して開催した。

Sustainable Week 2020

Sustainable Weekは今年で4年目を迎え、分野の融合や行政や他団体との連携によって様々な視点からSDGsやこれからの社会について考えるものへと変化しました。今年はオンラインでの開催で、実行委員会のメンバーはもちろん、参加してくださる方や見てくださる方も一緒にこれから実現したい社会について考え、行動するきっかけにしたいと思い、開催しました。

実施概要

期間：2020年10月5日(月) – 10月10日(土)

場所：オンライン(YouTube、Zoom、stand.fmなど)

参加費：無料

テーマ

Imagine the Future - ニューノーマルな文化祭 -

2030年までの世界共通の目標であるSDGsの推進はコロナ禍においても止めてはならないという強い危機感を持っています。どんな危機に直面してもSustainable Week は将来あるべき姿を実現するために挑戦をやめない文化の担い手が集まるイベントとして「文化祭」と名付けました。

※当団体にとってのニューノーマルとは：新しい生活様式の中で、あえて挑戦することで見えてくる経験等を記録することで、挑戦の再現性を高める新しい考え方

目的・背景

1 新型コロナウイルスの感染拡大によりで対面のイベント実施が中止に

例年通りのキャンパスを活用した対面形式のイベントではなくYouTubeやZoom等のオンラインツールを最大限に活用した「ニューノーマルな文化祭」としてSDGsを推進する

2 当団体のこれまでの経験を生かした「知の見える化」

知の拠点である大学やそこに所属する大学生がもつ課題意識や知見を企画として可視化しSDGsで整理・表現し、社会に発信する役割を担う

3 立命館学園のR2030学園ビジョンである「挑戦をもっと自由に」の体現

どのような状況であれ私たちに出来ることを模索し、発信することで小さくても、今できることを始めるきっかけを大学生や中高生などに伝える

4 手話や通訳等によるダイバーシティ＆インクルージョンの具現化

SDGsのスローガン「No one will be left behind (誰ひとり取り残さない) 」を意識し誰もが参加できるSustainable Week 2020の実現を目指す

企画紹介

01　SW2020オープニング企画「Imagine the Future」
02　Connect Campus 2020
03　つながるしが。つなげるワタシ。SHIGA SDGs Studios成果報告会
04　恋愛トークショー~持続可能な恋愛を考えよう~
05　SW LIVE NEXT
06　Makeup Is For Everyone　Makeup × LGBTQ+
07　アオイエ塾出前ワークショップ My SDGs -私らしくなが～く生きていくためのライフスタイル-
08　ボランティアリアルトーーク！
09　オンラインマジックショー
10　みやこKAMADOKIプログラム SDGs　Studios成果報告会
11　インクルーシブな社会について考える
12　Beginner’s Guide to Sustainable Fashion
13　SDGs勉強会第2回　オンライン時代の学生団体を考える
14　SDGs勉強会第3回　関係人口から生まれるニューノーマル
15　Mobility Idea Work Shop-これからのモビリティ、これまでのまちづくり-
16　haconiwa@オンライン-地域密着活動からSDGsを考える-
17　有機農法とSDGs-微生物で持続可能な農業づくり-
18　SUIKU特別拡大ver.1.3 学生ときどきCEOメンタリング~学生が言いたい放題~
19　滋賀TaBiアルバム
20　滋賀TaBi~びわ湖との約束~
21　誰もが活躍できる『多様性のある社会』とは？
22　TRICEAから読み解く建築とサステナビリティ
23　さすてならじお

▲YouTube 配信の様子

EVENT 01 Sustainable Week 2020オープニング企画「Imagine the Future」

学校法人立命館 仲谷善雄総長とともにSustainable Week 2020のテーマ「Imagine the Future」についてのパネルディスカッションを行いました。本イベントを開催する意味、そして未来のために今何ができるのかを考えるきっかけにもなりました。まだ学校に行けていない1回生の声、そして総長が学生に期待する声を伺うことができ、今後の学生活動の励みになったのではと思います。

主催：立命館大学 Sustainable Week 実行委員会

出演：学校法人立命館 仲谷善雄総長 ほか

VOICE

今回総長との対談という貴重な機会をいただき、大変嬉しく思います。コロナウイルスの影響で活動に不安がある中で本イベントを行い、これからの未来について前向きに考えることができました。総長からの言葉を励みにこれからも活動に取り組んでいきたいと思います。

佐藤彩香氏(出演者・立命館大学食マネジメント学部1回生)

EVENT 02 Connect Campus 2020

本企画は、「大学の枠を超えて学生の交流を増やすこと」「自分とは異なる文化を持つ学生と交流し合うことで、異文化の理解を深め相互理解すること」「反対言語を積極的に使い、言語を練習したい学生に機会を設けること」を目的とし、コロナ禍で留学に行くことができなかった学生や国際交流をしたくてもその機会が失われてしまった学生を対象に行いました。韓国とマレーシアからの留学生に協力して頂き、オンライン会議ツール「Remo」を使用して、各国の観光地・食などを紹介しました。楽しみながら各国の文化を知り、言語を使う機会となりました。

主催：立命館大学 Sustainable Week 実行委員会

VOICE

本団体に所属してから初めて企画したイベントとなり不安もありましたが、オンラインツールを使用した国際交流が成功したことに嬉しく思います。参加者の方々は積極的に英語を使用して質問や感想を伝えており、イベント後には母語ではない言語を使う機会ができて良かったという声を頂きました。協力してくれた留学生の方、ありがとうございました。

関根由夏氏(担当者・立命館アジア太平洋大学1回生)

EVENT 03 つながるしが。つなげるワタシ SHIGA SDGs Studios成果報告会

2020年度環びわ湖大学・地域コンソーシアム　学生支援事業のSDGs Studiosは、滋賀県内で実践的に活動している企業やNPO団体、自治体の方に取材し、SDGsの視点で取材・記事作成を行い、発信までを行うプログラムです。

今回は、参加学生による記事の発表や、三日月滋賀県知事と参加学生によるSDGsの視点での滋賀県の魅力や課題について意見交換を行いました。学生が活動を通して発見した滋賀の魅力から、SDGsにみんなで取り組んでいくことの大切さを発信する機会となりました。

主催：(一社) 環びわ湖大学・地域コンソーシアム学生事業支援部会

協力：立命館大学 Sustainable Week 実行委員会

出演：三日月大造滋賀県知事 ほか

VOICE

本企画では、滋賀県知事の三日月大造氏に登壇していただき、受講者とのトークセッションを行いました。三日月氏のお話やトークセッションを通じて、皆さんがSDGsを考えるきっかけになれば嬉しいです。

岡本七海氏(出演者・立命館大学薬学部1回生)

EVENT 04 恋愛トークショー ~持続可能な恋愛を考えよう~

本企画は、人生のひとつのテーマである「恋愛」について匿名で話し合うラジオトークショーです。計二回「Dabel」という音声コミュニケーションアプリで開催し、「好きってなんだろう？」「恋愛→結婚の流れって現代にあってるのか？」「持続可能な恋愛とは何だろう？」など様々なお題について話し合いました。はじめに様々な年齢や性別、バックグラウンドを持った方に登壇していただいて、その後に参加者同士でディスカッションを行いました。

共催：立命館大学 RI-sA プロジェクト
立命館大学 enRits 実行委員会
立命館大学 Sustainable Week 実行委員会

VOICE

この企画ではセンシティブな内容とされている「恋愛」に触れてみる新たな試みでした。背景には恋愛について悩んでいる大学生が多いにも関わらず、フラットに話し合える場所があまりないことがあります。「持続可能」と「恋愛」がどのようにつながっていくのかということも含めて楽しんでいただけたのではないかなと思います。1回あたり約20人にお越し頂き、立命館大学RI-sAプロジェクトが継続して毎週行うことになりました。これを読んでいるあなたも意見をぶつけてみませんか？

岡村謙一氏(担当者・立命館大学RI-sAプロジェクト)

EVENT 05 SW LIVE NEXT 第1回：休学・退学はあり？なし？/第2回：オンライン授業はあり？なし？

大学や学生の周りで起こっているニュースについて、立命館新聞社と共に深掘りし、大学生の在り方について探りました。第1回はなかなか聞くことのできない「休学・退学」について、体験談を交えてディスカッションをし、とてもレアな会になりました。第2回はオンライン授業について、当事者である、先生と学生のリアルな声をぶつけています。大学や学生の在り方が多様化している今、選択肢や視野が広がる動画を配信できました。

主催：立命館大学 Sustainable Week 実行委員会
協力：立命館大学新聞社
出演：(第 1 回) 迫佑樹氏 ほか
(第 2 回) 永野聡准教授 ほか

VOICE

【休学・退学】という共通言語で新しい価値観に触れることができました。また、素敵な出会いもあり大変満足しています。同世代の学生がこんなにも自分を持って活動していることに嬉しく思うと共に、自分も頑張ろうと思えました！ありがとうございました。

田中大喜氏(第1回ゲスト・休学の集い)

EVENT 06 Makeup is For Everyone. Makeup×LGBTQ

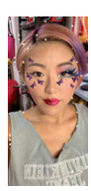
中澤真央氏による「ドラァグ・クイーンメイク講座」を行う企画です。より多くに人にドラァグクイーンメイクを通して、LGBTQ+をはじめとするセクシュアルマイノリティについて考えてもらうと共に、「日本の中でも性別関係なしにメイクを一種の自己表現として楽しめる世の中をつくる」という気持ちを世の中に発信することを目的としています。実際に男性の方にメイクをしていただくことで、視聴者の方々に対してインパクトを与え、ドラァグクイーンやLGBTQ＋に関心を持つきっかけにする機会に出来ました。

主催：立命館大学 Sustainable Week 実行委員会
出演：中澤真央氏、尾澤崚太氏 ほか

VOICE

メイクの経験も知識もない僕でしたがとても楽しい時間でした。ドラァグクイーンに留まらず、メイクアップの文化そして理解が広まっていけば良いなと思っています。

尾澤崚太氏(メイク講座モデル)



ドラァグメイクからメイクの豊かさ、個性、またLGBTQ＋に対する視野を広げてもらったら嬉しいです。

中澤真央氏(メイク講座講師)

EVENT 07 アオイエ塾出前ワークショップ My SDGs-私らしくなが～く生きていくためのライフスタイル-

今回のワークショップでは、自己理解に難しいイメージを持っていたり近寄り難いと感じていたりする人や、関心はあるけれどやったことはない人を中心に、少しでも自己理解を身近に感じてもらうことを目的として、取り組みやすいテーマ設定や、話しやすい場づくりを心がけました。参加者の皆様にとって楽しい時間であったことを願うと同時に、自分について知ることを身近に感じてもらえればと思います。

主催：アオイエ塾
協力：立命館大学 Sustainable Week 実行委員会

VOICE

アオイエ塾出前ワークショップと題して、自己理解プログラムの一部を体験してもらいました。自分の持続可能な未来の暮らしについて考えることで、現実の暮らしについて再確認することができたり、自身が暮らしに何を求めているのかを認識できたりしたかと思います。参加者同士での価値観のシェアの場にもなり、感想でも、自分や他者について知る機会になってよかった、また参加したいとの声を伺っており、2回目の開催も考えております。

松本愛梨氏(ファシリテーター・アオイエ塾サポーター)

EVENT 08 ボランティアリアルトーーク！

SDGsとボランティアの関連性に関する講演とボランティアに関わる3名のゲストをお呼びし、生の声を発信するトークセッションを行いました。ボランティアに対する素朴な疑問について話すことでボランティアに興味はあるが実際に行動に移せない学生・ボランティア活動をもう一度見つめ直したい学生にアプローチすることを目的としました。“共感の輪の広げ方”“対等な立場に立つことで生まれたもの”など、ボランティアをする上で大切なテーマについて考える機会となりました。

主催：立命館大学 Sustainable Week 実行委員会
協力：立命館大学サービスラーニングセンター
東近江 BBS 会
社会福祉法人高島市社会福祉協議会

VOICE

ボランティア支援が仕事の登壇者に、自らのボランティア体験をもとにしたトークを、と言う学生ならではの発想から生まれたトークセッション。登壇者3名が、それぞれの現場の香りと、見ている方向が同じである感覚を共有し、それに励まされました。この空気感が、ご覧の皆さんのボランティアへの一歩を後押しできていたら嬉しいです。

秋吉恵氏(立命館大学共通教推進機構 サービスラーニングセンター教員)

EVENT 09 オンラインマジックショー

エンターテインメントに興味がある方やHHARTの活動に興味がある方を対象に、HHARTがなぜ聴覚障碍者向けのスポーツ支援デバイスを開発しているのかを、そのきっかけの1つである通訳者付きの「マジック」を通して楽しく知ってもらいました。多くの方に楽しんでいただけるように、アーカイブ動画に手話通訳の方、字幕をつける等の工夫をしました。本企画を通して、参加者の方々とオンラインの在り方について改めて考えることができました。

主催：HHART
協力：立命館大学 Sustainable Week 実行委員会
CLOVER

VOICE

当日はアプリを使い、参加者同士でコメントが見られるようにしました。オフラインで行う場合と比べると満足度が高くないことが分かったため、これからはオンラインで満足度の高いものを作り上げていこうと思います。

杉山滉平氏(担当者・HHART代表)

EVENT 10 みやこKAMADOKIプログラム SDGs Studios成果報告会

みやこKAMADOKIプログラムは、令和2年度文部科学省 ユネスコ活動費補助金 (SDGs達成の担い手育成（ESD）推進事業)に採択されている京都市の事業です。SDGs　Studiosでは、朝日新聞社の新聞記者の方を講師にお招きし、「京都創生×SDGs」をテーマに、京都・関西の学生が京都市内のSDGsに関する取り組みへの取材・記事作成に挑戦しました。成果報告会では、参加学生による記事の発表や、藤田様（京都市レジリエント・シティ統括監）と参加学生によるSDGsの視点での京都創生やSDGsの新たな可能性や課題について意見交換を行いました。

主催：京都・関西 SDGs ネットワークみやこ
KAMADOKI プログラム実行委員会
協力：(一社)SDGs Impact Laboratory
立命館大学 Sustainable Week 実行委員会

VOICE

今回のみやこKAMADOKIプログラムでは、発信スキル講座の講師を務め、私も活動していた立命館大学新聞社の学生スタッフとともに、受講生の皆さんの活動をサポートしました。成果報告会では、京都市レジリエント・シティ統括監の藤田様にもお話しいただき、学生の皆さんとのディスカッションを通して、「若者による京都創生」へ向けた新たな可能性を感じることができました。

吉武莞氏(担当者・一般社団法人SDGs Impact Labortory クリエイティブディレクター)

EVENT 11 インクルーシブな社会について考える

人々が障害の有無に関わらず活躍できる社会を構想するためにはどうすれば良いかを考えるために、実際に、障害当事者の方や、障害当事者の方をサポートしておられる方に、コロナ禍での生活の変化(便利になったこと、不便になったこと)、コロナ禍で得た新しい価値観・気付き、そして、今後の社会に対する考えについてzoomウェビナーを通してお話しいただきました。参加者の方々と一緒に、障害について考える良い機会となりました。

主催：立命館大学 Sustainable Week 実行委員会
協力：立命館大学生存学研究所
出演：中村周平氏、窪崎泰紀氏

VOICE

企画を通して、自分自身が「障害」に対して「固定観念を持っている」ということに気付きました。医学モデルと社会モデルを大切に、今後、自分にできることは何かを考え、行動していきたいと思いました。

徳田祥吾氏(担当者・立命館大学理工学部3回生)

EVENT 12 Beginner’s Guide to Sustainable Fashion

本企画ではネイル・デザイン・古着のスペシャリストの大学生をゲストにお呼びしてSustainable Fashion講座を行いました。また、stand.fmを用いてラジオ配信を実施し、ゲストと視聴者の方とのコミュニケーションの場も設けました。本企画の目的は、「ファッションを通して自分ができそうなアクションを見つけてもらうこと」でした.。それぞれのゲストの方が「明日から取り組めるアクション」を提案し、「SDGｓ」や「サステイナビリティ」を私たちの生活の中に取り込み、「ジブンゴト」にできるヒントを動画にたくさん詰めることができました。

主催：立命館大学 Sustainable Week 実行委員会
協力：mecara、more__

VOICE

私としては、はじめてのSustainable　Week、はじめてのオンライン講義というはじめてづくしの取り組みでしたが、身近なファッションという側面からSDGsを考えてもらう良い機会になったと思います。アーカイブとして残っていることで、イベント後も楽しめる点も今回のイベントを通しての魅力になっていたと感じます。

西村美海氏(ゲスト・mecara)

EVENT 13 第2回SDGs勉強会オンライン時代の学生団体を考える

SDGs勉強会第2弾となる本企画では、組織心理学を専門とされている山浦一保先生（スポーツ健康科学部　教授）をお招きし、SW2020でつながった団体や参加者と、ワークショップや講演を通して「組織」について学びました。山浦先生の講演では、その場で参加者が考えられる問題にも取り組みながら、「組織」や「リーダーシップ」についてより体感的に学ぶことができました。組織内でどのような行動を取ると良いかを本企画で学び、それぞれの所属団体で活かしてもらうことができる企画となっています。

主催：立命館大学社会システム研究所
協力：立命館大学 Sustainable Week 実行委員会
一般社団法人 SDGs Impact Laboratory

VOICE

「組織について考える」と聞くと難しく感じる方もいるかもしれません。本企画ではワークショップを通して、組織について楽しみながら学ぶことができました。また、自分たちの組織についても改めて見つめ直すことのできる機会になったと思います。

中島綾香氏(担当者・立命館大学経済学部1回生)

EVENT 14 第3回SDGs勉強会関係人口から生まれるニューノーマル

SDGs勉強会第3弾となる本企画では、島根県を拠点に活動されているローカルジャーナリストの田中輝美氏をゲストにお迎えし、「関係人口の増え方と地域に与えるインパクト」をテーマにお話しいただきました。また、ディスカッションでは地域に入って研究を行っている大学教員や地域で活動している学生を交えて関係人口をキーワードにこれからの社会における地域との関わり方やニューノーマルな生き方について考える機会となりました。

主催：立命館大学社会システム研究所
協力：立命館大学 Sustainable Week 実行委員会
一般社団法人 SDGs Impact Laboratory

VOICE

実際に地域でお仕事をされている方と、地域で活動している学生、そして研究を行っている方と議論を交わすことで、様々な切り口から地域との関わり方について考えることが出来ました。

髙島千聖氏(パネラー・立命館大学文学部4回生)

EVENT 15 Mobility Idea Work Shop -これからのモビリティ、これまでのまちづくり-

本企画は大津市 建設部 地域交通政策課 主査長谷川祐介氏をお招きし、大津市の交通政策と自動運転バス実証実験についてお話していただきました。また、立命館大学生の取り組みとして、学内で行っている開発の現状と今あるテクノロジーを私たちの生活にどのように活用できるかを話しました。その後のワークショップでは、滋賀県内の観光地や移動手段について3つのグループに分かれ、それぞれが考える現在のまちの課題を出し合いました。参加者同士の議論を元に、新たなアイデアやこれまでのまちづくりに関して振り返ることができました。

主催：学生協働型キャンパス課題発見・解決プロジェクト
(チーム :Chill Tra)
協力：立命館大学 Sustainable Week 実行委員会
後援：大津市

VOICE

参加者同士のセッションでは、グループのメンバーで楽しくコミュニケーションを取ることができました。観光とモビリティについて現状の課題からこれからのモビリティとまちづくりについて考え議論することで、新しいアイデアや発見がある有意義な時間になったと思います。

岡本七海氏(担当者・立命館大学薬学部1回生)

EVENT 16 haconiwa@オンライン -地域密着活動からSDGsを考える-

滋賀県守山市美崎地区を拠点とした地域に密着した活動を行っていた haconiwa は、昨今の状況によって今までとは違った形でのボランティアを余儀なくされました。そんな中、参加者とともにオンラインでボランティアを実施する場合、どのような企画を行うことができるかを考え、グループディスカッションを行いました。オンラインという慣れない環境の中でできることを模索することは参加者にとっても意義のある機会になった企画だと思います。

主催：大川活用プロジェクト支援団体 haconiwa
協力：立命館大学 Sustainable Week 実行委員会

VOICE

オンラインでの活動は私自身経験が多いわけではないので緊張しました。参加者の方々もはじめは緊張しているように見えていましたが時間がたつにつれ、発言が増えたので何事も慣れが大切であると思いました。オンラインだからこその利点を生かした活動をこれからも行っていきたいと思います。

田中颯太氏 (担当者・大川活用プロジェクト支援団体 haconiwa 代表)

EVENT 17 有機農法とSDGs -微生物で持続可能な農業づくり-

Sustainable week 2020の一環として有機農法とは何かについて講義形式でYouTubeライブ配信を行いました。最近よく聞く有機やオーガニックという言葉。しかし、その意味を日本人の約6割はよくわかっていません(農林水産省調べ)。そのような方々に有機野菜とは何か、化学肥料を使った場合とどう違うのか等を理解してもらい、今後も栄養価の高いおいしい野菜を得るにはどのようにしたらいいのか考えるきっかけを持てるような企画になりました

主催：Ritree(緑化プロジェクト)
協力：立命館大学 Sustainable Week 実行委員会

VOICE

初めてのYouTube配信、それもライブ配信という事で、人の前に立って話すのとはまた違った緊張感を味合うことができました。新しい生活、ニューノーマルな社会が推進されている今、このような形での企画の開催は私にとっても新しい挑戦になりとても有意義な時間になりました。

松垣俊介氏(担当者・Ritree緑化プロジェクト代表)

EVENT 18 学生ときどきCEOメンタリング ～学生が言いたい放題～

「学生ときどきCEOメンタリング」は怖いもの知らずの現役学生たちがイノベーターの壁打ち、リフレクションの相手になります。それぞれの立場や垣根を超えた対話から、全く新しい可能性を創造することを目的としています。今回のゲストは、前原幸美さん（株式会社アンビリアル代表取締役）、小林武尊さん（株式会社サーベイボックス　代表取締役）をお招きしました。メンタリングをされに来たCEOの方々が、メンタリングし合う新しい会にもなり、純粋なメンタリングが様々な派生を生み出しそれぞれが高あえる企画になりました。

主催：SUIKU 学生チーム
協力：立命館大学 Sustainable Week 実行委員会
出演：前原幸美氏、小林武尊氏 ほか

VOICE

学生をメンタリングするのではなく逆にされるというのは初めての経験でしたが、とても新鮮でした。起業家の先輩や投資家から話を聞くのとは異なり、完全なユーザー目線オンリーだったり部下目線で意見を聞くのも参考になりました。今回はゲストの起業家同士でメンタリングしあったり、お互いの立場に関係なく入り乱れて話せたのも楽しかったです。リスナーの方々にとって、何かひとつでも参考になることがあって行動につながるといいなと思います！

前原幸美氏(ゲスト・株式会社アンビリアル代表取締役)

EVENT 19 滋賀TaBiアルバム

10 月 1 日から滋賀県で撮った写真とメッセージを募集し、滋賀 TaBi アルバムの制作を行いました。そこで届いた写真をもとに、TaBiwa+R のメンバーと滋賀の魅力を伝えるトークセッションを行いました。滋賀県の新たな魅力の発見や応募者の滋賀県への思いなどが伝わる企画になりました。

主催：TaBiwa+R
協力：立命館大学 Sustainable Week 実行委員会

VOICE

旅行が難しい時期でも滋賀を旅した気分を味わってほしいという思いで、この企画を行いました。写真を通して知らなかった魅力に感動するとともに、自分自身の滋賀愛を改めて感じることができる良い機会になりました。

荒木真凜氏 (担当者・TaBiwa+R 代表)

EVENT 20 滋賀TaBi ~びわ湖との約束~

10月1日から募集を行っていた滋賀TaBiアルバムをもとに、滋賀県の未来を考える「びわ湖との約束」についてのトークセッションを行いました。新しい滋賀県の発見から、びわ湖周辺の暮らしをさらによくするために、今できることは何なのか考える良い機会となりました。滋賀県で活動している大人の方とのお話で、学生である私たちだからこそできることを考えることができました。

主催：TaBiwa+R
協力：立命館大学 Sustainable Week 実行委員会

VOICE

行政職員は、問題点に目を向け、それを解決する方法を考えるという思考をしがちです。若い皆さんが滋賀県や琵琶湖について楽し気に話す姿をみて、改めて、滋賀の魅力・琵琶湖への愛が施策の原点にならなければならないことに気づかされました。全体の運営の質も高く、皆さんの力を実感する得難い体験でした。ありがとうございました。

一伊達哲氏(ゲスト・滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖環境保全課)

EVENT 21 誰もが活躍できる「多様性のある社会」とは？

本企画は、立命館大学副総長　松原洋子氏をはじめとし、さまざまなフィールドで「ダイバーシティ＆インクルージョン」の実現を目指した活動をされている豪華ゲストのみなさんをお招きし、「ダイバーシティ＆インクルージョン」をテーマにトークショーを繰り広げました。活動に関するお話を中心に、「ダイバーシティ＆インクルージョンとは？」という人から、「言葉は知っているが、何から始めればいいのかわからない」という人にも、”ジブンゴト”として考えられるようなメッセージを伺い、視聴者の方にお伝えすることができました。

共催：草津市
　　くさつ男女共同参画市民会議い～ぶん
　　立命館大学 Sustainable Week 実行委員会
出演：学校法人立命館 松原洋子副総長 ほか

VOICE

持続可能な社会を共に築くアクターでありながら、普段お話しすることのできない企業の方々、大学教授の方や同世代ユースの皆さんと共通のテーマについて対話する貴重な機会をいただいたこと、とても嬉しく思います。

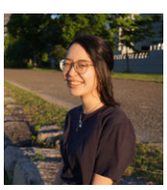
鈴木千花氏(ゲスト・立命館アジア太平洋大学1回生)

EVENT 22 TRICEAから読み解く建築とサステナビリティ

立命館大学びわこ・くさつキャンパスにあるTRICEAは、環境に配慮した技術・設備が取り入れられており、環境教育が可能な教材としての実験棟となっています。この設計に携わったのが本企画を共催した安井建築設計事務所です。安井建築設計事務所がこれまで手がけた建築事例や立命館大学の建築からサステナビリティと大学のあり方について学生・大学教員・企業の活発な意見交換が行われ、まさにトリシアの語源となった三位一体の交流の貴重な機会となりました。

共催：安井建築設計事務所
協力：立命館大学 Sustainable Week 実行委員会

VOICE



意見交換では、安井建築設計事務所の皆様とサステナブルなキャンパスにするためにはどうすればいいか、立命館大学の教職員の方や学生などそれぞれの立場からの様々な意見交換を行いました。また、今回のように異なる立場の方が参画してコロナ禍においてキャンパスに対して創造する機会や学生がサステナブルなキャンパスへ向けて行動することの重要性も感じることができました。

西野日菜氏(担当者・立命館大学理工学部4回生)

EVENT 23 さすてならじお

音声配信サービスstand.fmを使って、メインパーソナリティの2人とゲストとして各回に登場した8名のサステナメンバー(Sustainable Week実行委員会メンバー)が毎回テーマに応じてトークを繰り広げました。22:30-23:30の時間帯での企画実施や音声のみの発信は初めての試みでしたが、普段の企画では聞けないサステナメンバーの思いなど「オフレコな話」にスポットを当て、みなさんに届けるというこれまでにない新しい企画となりました。

主催：立命館大学 Sustainable Week 実行委員会
出演：上田隼也、山内瑠華 ほか

VOICE

オンラインで開催されたSustainable Weekで新たに音声配信にチャレンジしました。stand .fmというアプリを活用し、イベント期間中に実行委員会のメンバーの本音や裏話を語り合う場を作りました。顔も見えない、ラジオだからこその繋がりを生むことができました。

その後も、担当の山内さんは継続して活動を続けています。

上田隼也氏(メインパーソナリティ・立命館大学Sustainable Week実行委員会顧問)

企画の詳細についてはこちらからご覧いただけます

PV、アーカイブ配信

YouTube

Sustainable Week 2020
プレイリスト
https://youtube.com/playlist?list=PLiQA-frVZ2L43iILadkLFJlVf8UKsQnVIa

想い、見どころ、振り返り

note

Sustainable Week 2020
マガジン
https://note.com/sustainableweek/m/me-da2a246b303

KASSAI

投げ銭でSustainable Week 2020を応援

KASSAI × Sustainable Week 2020

Sustainable Week 2020では、「投げ銭」を通して直接応援の気持ちを伝えることが出来る「KASSAI」というシステムを使って応援を呼びかけました。

Sustainable Week 2020期間終了までに、11名の方にご支援をいただきました。投げ銭の際には温かい応援メッセージも頂戴し、今回のイベントの実施に限らず、今後の活動の励みになりました。ご支援・ご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。

KASSAI運営：Fintertech株式会社

お手軽応援コース	SUPPORTERコース	Special Thanksコース
応援金額	応援金額	応援金額
500 円～	2,000 円～	20,000 円～
リターン	リターン	リターン
応援いただいた皆様宛てにSustainable Week 実行委員会からの御礼メッセージをメールにてお送りします。	Sustainable Week 実行委員会からの御礼メールの送付ならびに、応援いただいた皆様のお名前を「Sustainable Week2020 SUPPORTER」として開催報告書に記載させていただきます。	Sustainable Week 実行委員会からの御礼メールの送付ならびに、応援いただいた皆様のお名前を「Sustainable Week2020 Special Thanks」として開催報告書と特設 HP に記載させていただきます。また、開催報告書原本を郵送いたします。

▲応援の種類

応援していただいた皆様(50音順、敬称略)

Special Thanks

石田明

SUPPORTER

一伊達 さとる　大島卓也　しましま

戸簾隼人　藤波崇　水口浩樹

※ご承諾いただいた方のみ掲載しています

数字で見る Sustainable Week 2020

YouTube

合計視聴回数

3,982 回

総再生時間

340.4 時間

チャンネル登録者数

＋38 登録

ユニーク視聴者数

1,809 人

※統計期間 9月27日～10月31日
※SW2020PV、アーカイブ配信含む
※上記期間中、対象動画以外で再生された動画も含まれています

Web MTG

合計参加者数

109 名

※Zoom、Remoを使用した体験・参加型企画

Radio

総再生回数

303 回

※stand.fm
※Dabelは統計がとれないため省略

参加者の声（視聴者アンケートより）

・成果報告会の在り方としても大変勉強になり、テーマ設定、進行、すべてPerfectでした。（30代社会人）
・異なる価値観の人の話を聞くことができて良かったです。（20代学生）
・学生の皆さんのサスティナブルに対する意識の高さに驚き、大人として見習いたいことが多かったです（50代社会人）

謝辞

上田隼也
立命館大学
Sustainable Week 実行委員会
（顧問）

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大に伴いオンラインでのイベント実施を余儀なくされました。しかし、今年のゴールデンウィークで実施したSW LIVE(サステナライブ)がきっかけでかなり柔軟にイベントのオンライン化に移行することができました。また、過去3年間実施してきたイベントよりも密度の濃いSDGsを学ぶ、体験の場が作れたのではないかと思います。また、実行委員会の思い切ったオンライン化に伴い、滋賀県や草津市、さらには企業の皆様も柔軟にオンライン化にご対応頂いたことも今回のSustainable Week 2020の成功につながったのではないかと思います。ご協力、ご支援頂いた皆様ありがとうございました。今後とも応援よろしくお願い致します。

おわりに

2017年からスタートしたSustainable Week。今年は初めてのオンライン開催ということで、立命館大学Sustainable Week実行委員会のメンバーも開催にあたっては不安なことがたくさんありました。そんな中、今年も立命館大学の学生団体や企業、行政の方など、多くの外部の方と共にSustainable Week 2020を作り上げることができたことを大変嬉しく思っております。

企画にご出演・ご登壇いただいた方、イベントの運営に関わっていただいた方、日頃より当団体を応援してくださっている皆様に心より御礼申し上げます。

今後とも、ご指導・ご鞭撻賜りますよう何卒よろしくお願いいたします。

立命館大学Sustainable Week実行委員会　一同

SUSTAINABLE WEEK
SUSTAINABLE WEEK SUPPORTS SDGs.

Sustainable Week 2020 REPORT

2020 年 12 月発行

著者　｜　立命館大学 Sustainable Week 実行委員会
発行者｜　立命館大学 Sustainable Week 実行委員会
〒525-8577　滋賀県草津市野路東 1-1-1
連絡先｜　sustainableweek@gmail.com

Sustainable Week 2020

立命館大学SW実行委員会公式HP▶

SUSTAINABLE WEEK

SUSTAINABLE WEEK SUPPORTS SDGs.

お問い合わせ

sustainableweek@gmail.com